

HOMAS 日本語版 ニュースレター	No. 54 平成 20 年 (2008 年) 7 月 26 日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫
<i>Hokkaido Massachusetts Society</i> 北海道・マサチューセッツ協会	発行所 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 道庁別館 12 階 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666 発行人 中 垣 正 史 E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp

北欧の有畜農業をもたらした指導者たち

北海道庁が招聘した北欧の外人模範農家

—札幌真駒内種畜場のモーテン・ラーセンと札幌琴似村農事試験場のエミール・フェンガー
 十勝地区甜菜農家のフリードリッヒ・コッホ(十勝清水)とウィルヘルム・グラバウ(帯広)—

明治 2 年(1869)7 月、明治政府の開拓使設置により、北海道の本格的な開拓がスタートしますが、明治 3 年(1870)5 月、開拓次官となった黒田清隆は、北海道の開拓や農業経営の模範を米国に求めて、マサチューセッツ州出身の米国農務長官ホーレス・ケブロン(1804-1885)やオハイオ州で牧場経営をしていたエドウィン・ダン(1848-1931)などを招聘したのです。そして、各地に開拓団が入植して農業開拓がすすめられました。

しかし、北海道農業は、新しい肥沃な原野の開墾地での、無肥料連作を長年続けたために、大正時代に入って次第に地力が落ちてきたといわれます。大正 6 年(1917)、道庁農政担当者と札幌酪農組合畜牛研究会とが中心になって地力回復のための有畜農業の検討をはじめ、「北海道第 2 期拓殖計画」として、北欧の有畜農法を北海道農業経営の参考として取り入れることになります。米国留学の酪農家の宇都宮仙太郎(1866~1940)、黒澤西蔵(1885~1982、酪農学園大学・現とわの森三愛高校の創立者)らの進言もあり、北海道庁(第 16 代長官、宮尾舜治)も主穀農業から主畜農業に転じたデンマークの大成功に注目していました。

大正 11 年(1922)から長期派遣で、道庁担当職員の山田勝伴・相原金治・神田不二夫と音江(現深川市)酪農組合長深沢吉平の 4 名の産業調査員がデンマークに派遣されていた間に、デンマーク模範農家招聘という道の方針が出て、その人選が進められることになりました。大正 12 年(1923)、北海道庁は、デンマーク人農家 2 戸、ドイツ人農家 2 戸を 5 ヶ年契約で招聘し、札幌近郊と十勝地区で模範経営を行わせることとしました。デンマークでは 165 名の応募者、ドイツでは 8 名の候補者の中から、4 戸を決定。十五町歩農家としてデンマークのモーテン・ラーセン<33 歳・4 人家族>(札幌真駒内種畜場内耕地)、五町歩農家としてエミール・フェンガー<31 歳・4 人家族>(札幌琴似村農事試験場内耕地)、十町歩農家としてドイツのフリードリッヒ・コッホ<43 歳・6 人家族>(十勝清水)とウィルヘルム・グラバウ<30 歳・4 人家族>(帯広)の 4 家族が招かれることになりました。

真駒内種畜場の有畜農業十五町歩農家のモーテン・ラーセン

モーテン・ラーセン(1890~?)は、18 歳から 20 歳までの間、商船学校に学び世界各国の見聞を広め、

英語にもドイツ語にも通じていたといわれます。1916 年、北シューランドに大農場を購入して多年苦心の結果、その経営に成功し、養鶏事業にも成功していました。

大正 12 年(1923)7 月 10 日、モーテン・ラーセン(33 歳)は、妻リーモア(32 歳)、長男ポール(8 歳)、長女エテッド(6 歳)の 4 人家族で助手のペダー・スヨンナゴー(25 歳)と一緒に、デンマークを出発、ドイツハンブルク港より東亜汽船「アフリカ丸」で出帆して、大震災の影響が残る横浜を避けて、9 月 12 日神戸港に入港、そして 9 月 19 日に真駒内種畜場に到着しています。

ラーセン一家は、種畜場の敷地内に北欧風の白い木造家屋を建て、畜舎を作り、農耕馬 2 頭、乳牛 6 頭、豚 20 頭、鶏 50 羽を飼い、プラオ、カルチベーター、ハロー、ヘーレーキ、播種機、種子選別機などの機械を使って十五町歩の有畜混合農業を経営したといえます。この経営状況は真駒内の農家のモデルとなり、農事や家畜改善に大いに役立ったのでした。北海道大学でもそれまでの主穀農業とモーテン・ラーセンの主畜農業の違いを克明に記録しました。モーテン・ラーセンは働き者で、家族は 4 人。いつも大きなエプロンを掛けて太って体格の良い奥さんは親しみやすく、助手のスヨンナゴーも温厚質朴な青年であったといわれています。ラーセンは毎日、家畜の世話や農作業をし、スヨンナゴーも助手としてよく働いたそうです。夫人は午前 10 時ごろと午後にも畑へお茶やおやつを持って行ったようです。夕食後は、一家 5 人で場内を散歩する日課であったようです。労働と余暇のけじめがはっきりしていて、日曜日は安息日として必ず仕事を休み、2 頭の馬にラーセンと妻リーモアがそれぞれ子供を一人ずつ乗せて、円山や琴似の方まで出かけたりしたということです。

近所の人たちは菜園や果樹園の作り方、農機具の使い方などを教わり、野菜や果物の種子をもらって自宅の畑に植え育てるなどの交流があったようです。こうして日本人に親しまれ、有畜農業による地力回復に成果をあげたモーテン・ラーセン一家ですが、5 カ年の契約を少し残して、昭和 2 年(1927)11 月末札幌を離れ、シベリヤ経由でデンマークへ帰りました。帰国後、酪農業をつづけていましたが、養鶏業の失敗などもあってか、カナダへ移住(1945?)したようで、モーテン・ラーセンの晩年についてはよくわかっていないようです。

また、助手のスヨンナゴー(1900~1963)は、帰国後ユトランド北部で酪農業を営んで、日本語ができることもあって、日本からの多くの研修生を受け入れるなど親日的であったそうです。野喜一郎、太田正治(八雲町)、黒澤酉蔵、佐藤貢なども訪問しています。

その後真駒内地区は大きくかわり、現在は、「真駒内五輪記念公園」(緑町 3 丁目)の一角にある「ラーセン農場跡」の標識がわずかに往時を偲ばせています。

真駒内緑町 3 丁目、真駒内五輪記念公園にある標。

真駒内種畜場内(現在の緑町 5 丁目から緑町 5 丁目)にあった、デンマーク人のモーテン・ラーセンの農場跡。北海道第二期拓殖計画で畜産農業を推進するために、大正 12 年(1923 年)から 5 年間ラーセン一家が移住し、15 ヘクタールの農場を開き北欧型有畜農業の実生活をモデル的に実証した所。

この標は、真駒内連合町内会が平成 11 年(1999 年)に以前の標柱に変えて設置。

ラーセン農場跡



さて、ラーセンやフェンガーが滞在中の大正 13 年(1924)2 月 18 日から 1 週間、北海道会議事堂で、一般農民を対象にした「デンマーク農業講演会」(北海道畜牛研究会主催)が開催された時には、二人も講師を依頼されて講演をしています。モーテン・ラーセンは、当時のデンマーク農業の協同組合による成功について話し、エミール・フェンガーは、収穫後の畑作について話しています。また、デンマーク農家の料理法の講習会なども開催されています。

モーテン・ラーセンの農場には、真駒内の北海道種畜場ということもあって、日本人の農業実習生もいました。その中で後に青年酪農家三澤正男氏(1904~1954)(後に道会議員となり、昭和 29 年 9 月 15 号台風の洞爺丸事故により急死。)は、ラーセン家と交遊のあったフリードリッヒ・コッホの次女ヘルタと結婚しています。一男四女があり、現在、長男三澤道男氏(道会議員を務めた)は八雲町で酪農業を営み、十勝清水でコッホが作ったパン焼き釜を家族で八雲町に移設し、日々使用して大切に保存しているということです。みなさんご家族健在とのこと。三澤家とドイツのコッホ家の親族は今も交流が続いているそうです。次女のみいさんは、丸山孝士夫人として千葉県佐倉市に在住。2001 年には、機会を得て、ご家族でドイツのコッホの故郷を訪問した折、日本甜菜糖株式会社札幌支社のお世話により、フリードリッヒ・コッホが勤めていたクラインワンツレーベンの製糖会社も訪問して、日の丸の旗を掲げて歓迎してくれたことに感激を新たにされたそうです。このようにドイツのコッホ家とは今も交流が続いているそうです。

北海道農事試験場(琴似村)の主畜農業五町歩農家のエミール・フェンガー

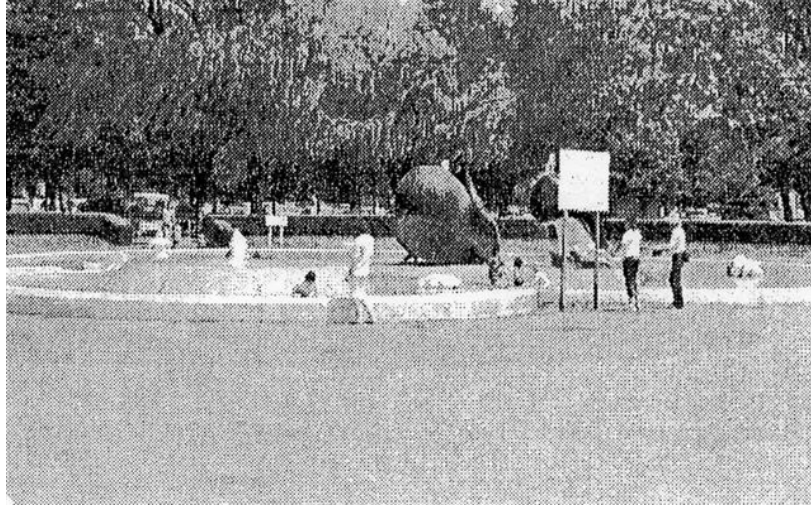
エミール・フェンガーは、明治 27 年(1894)生まれで、デンマーク最高のコペンハーゲンの国立農業獣医学を大正 7 年(1919)に卒業していますが、なおこの間も含めて約 7 年間各種農場や農業研究所の実地経験も積んでいます。大正 11 年(1922)からノーズジョランド農業学校で教鞭を執りながら十町歩農場も経営していました。彼は英語もよくし、妻フリーダも 1 年半のイギリス遊学の経験があり英語をよく話したといわれ、北海道庁の模範農家としての招聘が決まりました。

大正 12 年(1923)8 月 14 日、エミール・フェンガー(31 歳)は、妻フリーダ(34 歳)、長男フリッツ(5 歳)、長女オウサ(3 歳)の家族と一緒にデンマークを出発、ベルギーのアントワープ(アントウエルペン)経由で東亜汽船「チリー丸」に乗り、10 月 15 日神戸入港、そして 10 月 26 日札幌琴似村の農事試験場に到着。五町歩の混合農業を営みました。

北海道庁は、プラオ、ハロー、カルチベーター、馬車(馬轎)などの農機具をデンマークに注文し、また耕馬 2 頭、乳牛 2 頭(後に 6 頭)、豚 3 頭、鶏 25 羽なども手配しています。住宅、畜舎及び納屋などはフェンガー自身が設計してデンマーク風に連結したものを建てています。農業経営は、北欧風農機具を駆使した新しいやり方で、作物は主として飼料用の牧草、根菜、麦類、馬鈴薯、家畜ビートなどであったようです。普通の日課としては、例えば、朝、搾乳後、牧草地に牛を放牧して、畜舎を掃除したり、正午には、畜舎に入れて手入れをして休養させてから再び放牧し、夕刻畜舎に入れて搾乳を行うなどといった生活であったようです。フェンガーは、デンマーク農業参事会にも定期的に詳細な報告を書き送っています。フェンガーは、5 カ年の契約が満了となり、昭和 3 年(1928)6 月 1 日札幌を発ちましたが、その当日の出発数時間前まで、琴似の農事試験場での実地指導にあたるという熱心な人であったといわれます。約 6 カ月にわたり、アメリカ・カナダを視察後帰国。ノーズジョランド農業学校教師に復帰しています。

現在、札幌の琴似地区は大きく変り、フェンガーの「農事試験場」を記念するものはなにもなく、後の「北海道農事試験場」も、琴似発寒川沿いに「農試公園」<運動公園>として、わずかにその名残をとどめてい

るにすぎません。



〔札幌市西区の農事試験場跡—現在の農試公園（運動公園）〕

さて、エミール・フェンガーはその後、コリンズ農業会理事(1930～32)、小作経営(1932～35)、ライングビー農業学校教師(1931～41)、そしてノーズジョランド農業会教師のかたわら農業経営(1945～50)にあたっていました。昭和26年(1951)3月、フェンガー57歳の時に、日本政府農林省の招きで、4ヵ年契約で再び妻フリーダとともに来日しています。山形県新庄市の東北農業試験所(平成のフェンガー記念館)所属で、日本各地の講演や農場視察などでデンマーク農法の指導にあたっています。昭和29年(1954)9月、日本の酪農経営の発展に多大な功績を残して、契約満了で帰国しています。なお、昭和43年(1968)エミール・フェンガー氏寄贈の基金による「エミール・フェンガー賞」が設けられています。平成16年(2004)には、農業試験所(住宅・畜舎)は、「フェンガー記念館」として改修、資料なども保存されています。

甜菜(ビート)作付を中心とした十勝地区の十町歩農家・・・コッホとグラバウ

製糖原料であるビート栽培の歴史は古く、北海道では明治初年開拓使の札幌官園での試作に始まりませんが、ビート製糖業は、有珠郡西紋鼈(にしもんべつ)の官営紋鼈製糖所(明13)・晩成社依田勉三の「当縁農場」の甜菜工場などの努力も試作に止まり、その後、「北海道製糖工場」(大8)や「日本甜菜製糖清水工場」(大9)の進出によるビートの作付け指導から本格的な栽培が始まりました。しかし、ビートは連作がきかず、多肥を必要とすることもあり大規模な作付は困難でした。

そこで、道庁は、ビート農家の栽培技術の向上を目指して、甜菜作付を条件とする十勝の十町歩模範農家として、ドイツからフリードリッヒ・コッホとウィルヘルム・グラバウの二農家を招くこととしました。人件費以外の土地、住宅、家畜、畜舎、農業機械等の設備は、「北海道製糖株式会社」(大正8年・1919年設立、大正9年・1920年12月操業開始、現存するビート製糖工場としてわが国最古のもの)と明治製糖株式会社によって無償で提供されて、その他の費用(人件費等)は道庁が支出しています。人選については、ドイツのクラインワンツレーベン甜菜会社の推薦によってこの2農家の招聘が決まり、大正12年6月に5ヵ年契約の仮契約をしています。



〔十勝清水滞在当時のコッホの家族写真〕

＜後列左から＞

妻 ベルタ・コッホ
長女 エルナ・コッホ
次女 ヘルタ・コッホ
フリードリッヒ・コッホ

＜前列左から＞

次男 リヒャルト・コッホ
長男 オットー・コッホ

コッホの家族写真2枚は丸山るみ氏提供：上と下

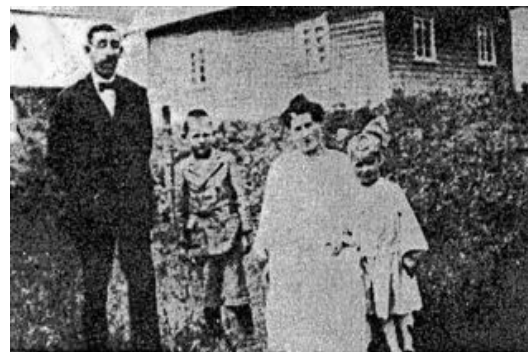


コッホ滞在当時の住宅と家族の写真（下の写真と同じ家）



現在も使用されているコッホの住宅（2008年6月18日撮影）

＜写真提供―清水町教育委員会社会教育係長 安々平宗重氏＞



グラバウ一家（大正12年）



グラバウの家（大正12年）

大正12年(1923)7月20日、コッホとグラバウの両家族一行10名は、北ドイツのロイド汽船「ウェザー号」で、ブレーメン港を出帆して、9月25日神戸に入港しています。そして、グラバウ家族は10月3日北海道製糖株式会社所有地（帯広）に、コッホ家族は10月4日明治製糖所牛機会社有地（十勝清水）に

それぞれ現地到着しています。2 人とも十勝国において十町歩の甜菜栽培を主とした混合農業経営にあたります。両家族には、ドイツ式のプラオ、ハロー、耕作機、除草機、播種機、ローラー、刈取機、四輪馬車など、さらに耕馬 2 頭、乳牛 3~4 頭、豚 3~5、鶏 35 羽などが提供されています。

フリードリッヒ・コッホ（43 歳）は、妻ベルタ（43 歳）、長男オットー（20 歳）、次男リヒャルト（18 歳）、長女エルナ（16 歳）、次女ヘルタ（15 歳）の 6 人家族。コッホは小学校卒業後、ノラベッツエーク・ウント・ケゼック製糖会社の甜菜部に勤務して、ビート栽培技術者として会社でも高い評価を得ていました。（第一次世界大戦従軍、言語はドイツ語のみ）

コッホと息子 2 人の 3 人が主として甜菜の農業経営にあたり、輪作携帯の技術指導をしました。妻と娘 2 人は家事の処理を担当したようです。住宅・畜舎は、ドイツ農家の設計図を参考にして建てられた 2 階建（24 坪）の立派なものでした。また、畜舎は 40 坪（7 舎）、豚舎 5 坪、倉庫も 40 坪という広さでした。

コッホは、十勝での農業経営に情熱と誇りを持ってあたり、その営農の独創性は地元の農民にも大きな影響を与えたといわれます。またコッホは、北海道十勝の生活になじんで、契約期限を 2 カ年延長して、結局、十勝清水に 8 年いたそうで、その住宅は、現在も保存されているそうです。

昭和 5 年（1930）11 月、札幌で行われた青年酪農家三澤正男氏と次女ヘルタの結婚式を家族全員で見届けて、同年（1930）12 月 2 日、正男・ヘルタに見送られて、家族とともに横浜から帰国しました。

ウィルヘルム・グラバウ（30 歳）は、妻マリヤ（35 歳）、長男ウィルヘルム（7 歳）、長女シャルルティ（5 歳）の 4 人家族。グラバウも小学校卒業後、同じ製糖会社に入社。甜菜の耕作に従事していました。（第一次世界大戦従軍、言語はドイツ語のみ）

グラバウ一家の住宅は、2 階建で 21 坪あり、畜舎・納舎は 78 坪（6 舎）、他に豚舎及び農機具置場 15 坪という大きな立派なものが提供されています。グラバウは、製糖工場の工員出身で、その営農技術はさほどではなかったようですが、農民であることに強い誇りを持っていた点で、卑屈になりがちな農民に好刺激を与えたといわれます。グラバウは、昭和 3 年（1928）秋に帰国しています。

作物は、コッホの場合もグラバウの場合もともに、やはり甜菜作付中心とする「混同農業経営」で、他に家畜ビート、家畜人参、燕麦、麦類、トウモロコシ、豆類、馬鈴薯、クローバーなどを栽培していたようです。

その後のコッホ家と三澤家の交流の思い出（千葉県佐倉市在住 丸山るみい氏 談）

私どもの両親（三澤正男・ヘルタ）は、「昭和 5 年に、帰国するコッホの家族を横浜港まで見送りに行ったのが私たちの新婚旅行だった」と言っておりました。そして第二次大戦、戦後の東西ドイツの分断、フリードリッヒ・コッホの死、東ドイツとなったコッホの家族とは文通さえも困難な状態が続きましたが、昭和 28 年（1953）、デンマーク・コペンハーゲンで開催された世界酪農会議に父三澤正男が日本代表団の一員として出席することとなり、それまでかなわなかった母ヘルタの里帰りを期して、二人揃って出かけました。しかし、東ドイツとなった故郷の土を踏むことはできず、ベルリンでの限られた 48 時間の再会となりました。すでに他界していたフリードリッヒ・コッホを除き、母親ベルタをはじめ 12 人の家族全員との 23 年ぶりの再会でした。今は亡き父がこの感激的な再会の様子を何度も何度も話してくれましたのも、懐かしい思い出です。その翌年、昭和 29 年（1954）9 月の洞爺丸台風の事故で、洞爺丸に乗船していた父を私どもは失いました。故郷をこの目で見たい、その土を踏みたいと思い続ける母ヘルタの里帰りを願う三澤家に、幸いにもその機会が訪れます。昭和 58 年（1983）11 月、当時北海道ホルスタイン農業協同組合の理事・組合長をしていた三澤道男は、ドイツホルスタイン協会及びドイツ人工受精所の招きで、母ヘルタ同伴で訪独。その際、ドイツ側での、ヘルタの故郷訪問実現の努力にもかかわらず、またも、東独にあった故郷への里帰りはかないませんでした。夫の死、かなわぬ再度の里帰り、失意に沈んだ母ヘルタはその後多くを語ることはありませんでした。

た。でも私の記憶にある両親は、いつもフリードリッヒ・コッホが北海道で果たした業績を誇りとしていたことを知っております。

＜参考文献及び参考資料＞

- ・ 外人農家概況（第一次・大 13、4）（第一次訂正増補版・大 14、10）（第一次訂正版三版・昭 2、7）
（第二次・昭 2、8） 北海道庁産業部作成 （道立文書館所蔵）
- ・ 外人農家の農業経営法（昭和 3、7） 北海道庁産業部作成 （道立文書館所蔵）
- ・ 札幌市総務局行政部 文化資料室 郷土史相談室資料 （今倉 迪夫氏提供）
- ・ 「清水町史」（コッホについて） ・ 「大正村史」（グラバウについて）
- ・ 郷土研究誌「らんぷ」第 3 号 ・ 「帯広市史」昭和 59 年版
- ・ 「写真集ふるさとの思い出 11・帯広」 国書刊行会
- ・ 帯広百年記念館資料 （学芸研究員 作間 勝彦氏提供）
- ・ 復刻版「北海道に於ける独逸人経営の模範農家」（吉村真雄）＜「農業世界」昭和 3 年新年号・2 月号＞
- ・ 論文「大正時代北海道のデンマーク模範農家招聘について」（北海道東海大学助教授 佐保 吉一氏）
- ・ 「真駒内物語」（谷代 久恵著） 北海道新聞社刊
- ・ 千葉県佐倉市在住 丸山 るみ氏（フリードリッヒ・コッホの孫娘）から、いろいろ資料・写真提供とご教示をいただきました。近年、丸山るみ氏にドイツの著者から寄贈された次の研究文献があるそうです。『前世紀初頭におけるクラインワンツレーベン製糖工場による甜菜栽培の日本での進展』（原題省略）（エルハルト・ユンクハンス著）＝内容はコッホ及びグラバウの日本における甜菜栽培の指導の開始から離日に至るまでの詳細な記録・写真＝（丸山るみ氏所蔵）
- ・ その他インターネット資料など

2008 ボストン美術館浮世絵名品展・ピカソ展鑑賞ツアー

みどころたくさん！の東京 3 日間の企画です！

参加者募集

ー浅草親音と仲見世～江戸東京博物館(両国)～国立新美術館(六本木)ー

アメリカのボストン美術館には 5 万点をこえる浮世絵版画と多くの版本・肉筆画が所蔵されているといわれます。その質の高さと数量は世界一の規模と評されています。今年、その膨大な収蔵品の中から厳選された日本初公開の「ボストン美術館浮世絵名品展」が名古屋ボストン美術館(2008、1、2～4、6)で開催され、続いて新潟市美術館(4、15～5、13)、福岡市美術館(7、12～8、31)、そして江戸東京博物館(10、7～11、30)で開催されます。

さらに、総ガラス張りの美しい曲線を描く「ガラスカーテンウォール」で注目された黒川記章設計の日本最大の新しい美術館「国立新美術館」＜2007 年 1 月開館＞では、「ピカソ展」(2008、10、4～12、14)が開催されます。これは、フランス・パリのピカソ美術館所蔵品の世界巡回(2008～09)の特別展として、東京では国立新美術館とサントリー美術館の 2 会場で同時開催されるものです。

今回の美術鑑賞ツアーは、この 2 大美術展鑑賞と斬新な設計で注目されている新しい「国立新美術館」そのものも見学します。初日には、江戸下町の風情の残る浅草散策と浅草の老舗「天ぷら三定」での夕食を楽しみたいと思います。3 日目のフリータイムは都内各美術館・博物館の特別展をご紹介しますので、美術三昧の 2 泊 3 日の旅になります。会員の親睦もふくめた、こだわりの内容をもりこみました。皆様のご参加をお待ちしています。

1、企画・実施 北海道・マサチューセッツ協会 (TEL 011-231-3392 FAX 011-231-3666)

2、旅行取扱い (株)日本旅行北海道札幌支店 担当者 伊藤 誠
札幌市中央区南1条西4丁目 日本旅行札幌ビル4F
(TEL 011-208-0170 FAX 011-208-0174)

3、期 日 平成20年10月17日(金) ~19日(日) 2泊3日

4、日程表

日	月 日 (曜)	コ ー ス 内 容	食 事
1	10/17 (金)	空港集合 9:00 新千歳空港-----羽田空港 (荷物預かり) -----ホテルへ JAL506 10:00 11:30 浅草観音と仲見世見学 (昼食) (浅草「三定」で夕食)	— (昼) (夜)
2	10/18 (土)	ホテル発-----ホテル着 8:30 (昼食) 16:30(自由行動) 午前江戸東京博物館「浮世絵名品展」 <10/7 ~11/30> 午後国立新美術館「ピカソ展」 <10/4 ~12/14>	(朝) (昼) —
3	10/19 (日)	終日フリータイム <各美術館・博物館特別展ご案内> 各自羽田空港集合 羽田空港-----新千歳空港 (着後解散) 17:00 JAL539 18:00 19:30	(朝) — —

(ホテル) 浅草 ホテルユニゾ(2泊)。 この日程表は諸般の事情により変更になる場合があります。

- 5、経 費 旅行代金 交通費・食事代・入館料なども含んだこだわりの内容で 59,800円
(1) ホテルは2名1室の予定です。(1人部屋ご希望の方は、1泊2,000円追加となります。)
(2) 旅行費用に含まれるもの:往復航空運賃、都内交通費(京急、都営地下鉄)、ホテル宿泊代、
江戸東京博物館・国立新美術館入館料、食事代(朝食2回・昼食2回・夕食1回)
(3) 2日目の夕食と3日目の自由行動(昼食・夕食)は、旅行代金に含まれていません。
○なお、非会員の方は、できれば当協会にご入会いただきたいと思います。
(年会費 一般3,000円)

6、募集人員 先着15名 (催行人員10名)

7、申込期限 別紙の参加申込書により、平成20年9月2日(火)までに事務局にお申込みください。
申込時に、申込金10,000円をお振込みください。
なお、当協会にご入会いただける方は、年会費3,000円もお振込みください。

8、参加申込書(別紙)

都内の各美術館・博物館 開催プログラム (予定)

***「ぐるっとパス」各美術館共通割引券も手配します。**

東京都美術館	『フェルメール展』	<2008,8,2 ~12,4>
東京国立博物館	『尾形光琳生誕 350 周年記念 大琳派展—継承と変奏—』	<2008,10,7~11,16>
国立西洋美術館	『ヴィルヘルム・ハンマースホイ』 ぐるっとパス対象外	<2008,9,30 ~12,7>
	19 世紀デンマークの国民的画家の回顧展	
上野の森美術館	高松宮殿下記念世界文化賞 20 周年記念	
	『Art of our time 世界文化賞受賞者展』	<2008,9,27 ~11,9>
	『新宿中村屋につどった人々—大正時代の芸術サロン—』	<2008,10,18~2009,1,12>
サントリー美術館	『ピカソ展』 (同時開催)	<2008,10,4 ~12,14>

2008 ボストン美術館浮世絵名品展・ピカソ展鑑賞ツアー 参加申込書

期 日：平成20年10月17日(金) ~19日(日) <2泊3日>

美術館：江戸東京博物館、国立新美術館、(ほか浅草散策など)

☐ 会員 ☐ 非会

(いずれかに✓を入れてください。)

お問い合わせ 申込書送付先	〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館 12 階 北海道・マサチューセッツ協会 事務局 TEL(011)231-3392 FAX (011) 231-3666
------------------	--

ふりがな			性 別	年齢	職業	
氏 名			男・女	() 歳		
ふりがな					電 話	
現 住 所					() —	
					FAX	
					() —	
勤 務 先 (学 校 名)	名				役 職 名 (学 年)	
	所 在					
	電 話 番	() —	FAX	() —		
同室希望者	(お名前)			一人部屋希望	☐ 有(追加料金 円) ☐ 無	
申 込 時 の 振 込 (○で囲んで下さい)	(申込金 10,000円) (入会者年会費 3,000円)					
お振込先 (振込口座名) 北海道・マサチューセッツ協会 北 洋 銀 行 道庁支店 (普通) 3031226 札 幌 銀 行 札幌駅前支店 (普通) 422325 北海道銀行 道庁支店 (普通) 0545916 郵便振替口座 02710-4-47096						

再びボストンシンフォニーホールへ

……Music has no border !!……

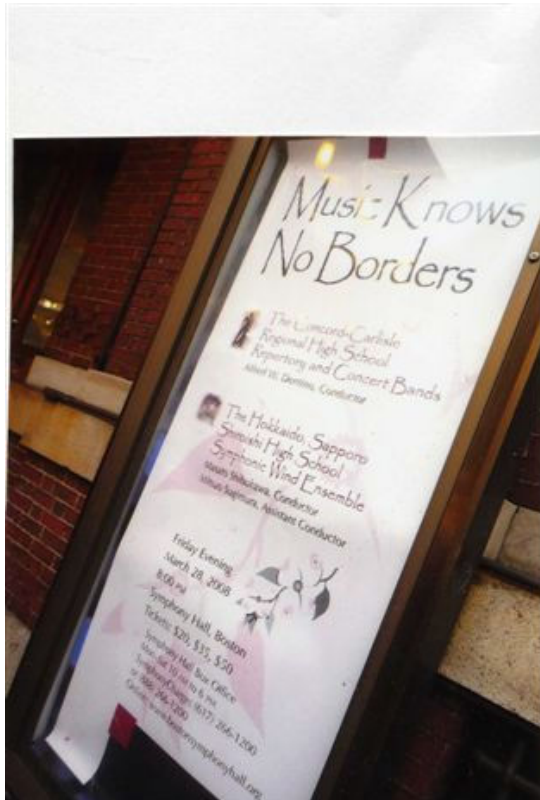
大成功の札幌白石高校吹奏楽部マサチューセッツ州訪問交流行事

北海道とマサチューセッツ州の新しい国際交流事業の一つとして、札幌白石高校ブラスバンド一行(団長 清水 久雄校長 104 名)は、3 月 23 日(日)～31 日(月)の日程でマサチューセッツ州を訪問しました。コンコードカーライル高校の訪問交流・ホームステイを主軸に、多彩な親善交流を経験して帰国しました。＜主なもの＞26 日(水)午前、コンコードカーライル高校歓迎セレモニー(音楽堂)でのコンサート。27 日(木)午前、音楽教育者協会の研修会場(パークプラザホテル)でのコンサート。アル・デンティーノ先生の司会により、6 曲を演奏、拍手喝采の高い評価を受ける。同日午後、マサチューセッツ州議会を表敬訪問してパトリック知事にも面会、集合写真を撮る。28 日(金)、いよいよメインイベントのボストンシンフォニーホールの合同演奏会では、前回(2003 年)にも増して超満員の聴衆に迎えられて、ここでも熱烈的なスタンディングオベーションの拍手喝采を受ける。また、マサチューセッツ州知事から、札幌白石高校吹奏楽部にたいしてボストンシンフォニーホールの演奏への「感謝状」が送呈されました。

両校の交流は、1998 年 4 月のコンコードカーライル高校ブラスバンドの初来日に始まり、2003 年 1 月札幌白石高校吹奏楽部の訪米、2004 年 4 月コンコードカーライル高校の来日、そして 2007 年 4 月コンコードカーライル高校の来札を受けて、今回、札幌白石高校の 2 度目のマサチューセッツ州訪問という相互交流の歴史を重ねています。



【写真】 2008 年 3 月 28 日 : ボストンシンフォニーホールの両校合同演奏風景



〔写真〕 看板 “ Music knows No Borders ”



〔写真上〕 （中央:ムーレイ副知事）
清水校長(左)と握手するパトリック知事(右)



〔写真〕 マサチューセッツ州知事・副知事からの「感謝状」(左) と 訳文(右)





北海道・マサチューセッツ協会 平成20年度 総会

日 時 平成20年5月13日(火) 15:20~16:30

会 場 北農健保会館3階会議室「芭蕉」

平成19年度 北海道・マサチューセッツ協会事業実績

1. 会 議 平成19年度理事会及び総会 5月8日(火) 於北方圏センター会議室
2. 広報活動 会 報 「HOMAS」ニューズレターの発行 第51・52・53号
3. 行 事・関連行事
 - (1) 総会・ミニコンサート 2007年5月8日(火) (北海道インターナショナルスクール合唱団生徒のコーラス)
 - (2) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ (ディスカバーウォーキング・ハイキング & お食事会)
 - 5月12日(土) —真駒内コース(南区開拓の歴史再発見)—桜山(真駒内保健休養林)・モーテン・ラーセン農場跡(五輪記念公園)・真駒内用水路(真駒内緑町緑道)・エドウィン・ダン記念公園銅像及び記念館
 - 6月16日(土) —五天山コース(古くは開拓期の採石・今は静かな信仰の山です。)—(平和登山口~五天山神社~頂上(303メートル)~採石場跡側~福井下山)
 - 7月31日(火) —植物園・清華亭・北大コース—植物園(博物館・北方民族資料室・ライラック通り)・清華亭(偕楽園跡)・北大(クラーク胸像・総合博物館・ポプラ並木・新渡戸稲造銅像・モデルバーン)
 - 9月27日(木) —藻岩山33ヶ所霊場登山と十五夜お月見夕食会・ミニコンサート(馬頭琴)
 - 10月13日(土) —北3条通り「ケプロン通り」を歩くコース—開拓使本庁舎跡・赤れんが庁舎・北3条通り歴史散策・旧開拓使麦酒醸造所・永山邸・札幌ビール博物館・昼食会・JR苗穂工場・鉄道技術館
 - (3) 国際交流ランチセミナー
 - 7月14日(土) 第1回 国際交流ランチセミナー<小樽バスター&ヒルトン昼食会>
 - 11月23日(金) 第2回 国際交流ランチセミナー<アメリカの歴史を学ぶ・サックス・ピッキングパーティー>
 - 2月9日(土) 第3回 国際交流ランチセミナー<世界の旧正月>
4. 交流事業 国際交流事業
 - ・2007年4月10日(火)~14日(土) コンコードカーライル高校訪問団(約107名) 来札
札幌白石高校吹奏楽部とのジョイントコンサート(12日(木)・kitara)
 - ・2008年3月23日(日)~31日(月)
札幌白石高校ブラスバンド マサチューセッツ州へ派遣
 - ・2008年3月24日(月)~30日(日) 会場: 札幌芸術の森アートホールアリーナ
バークリー音楽院タイガー大越教授を中心とするジャズセミナー
「北海道グループキャンプ」後援
5. 資料 本道とマ州の関係資料・情報等の収集

平成 19 年度 一般会計 収支決算

I 収入

(単位: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会費	3, 100, 000	2, 903, 000	△197, 000	
個 塵 会 費	600, 000	552, 000	△ 48, 000	200 口
法 人 会 費	2, 500, 000	2, 351, 000	△149, 000	135 口
助成金	0	0	0	札幌国際プラザ
広告収入	30, 000	110, 000	80, 000	
雑収入	30, 000	7, 770	△ 22, 230	預金利息他
前期繰越金	259, 315	259, 315	0	
合計	3, 419, 315	3, 280, 085	△139, 230	

II 支出

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
事業費	285, 000	145, 667	△139, 333	
会報発行費	80, 000	65, 641	△ 14, 359	会報3回(印刷送料)
セミナー開催費	50, 000	50, 000	0	ランチセミナー3回
情報収集費	5, 000	4, 180	△ 820	参考文献
特別会計操出金	120, 000	0	△120, 000	歴史発見の旅(米西海岸)
訪問団受入費	30, 000	25, 846	△ 4, 154	小グループ受け入れ
会 議 費	3, 000	768	△ 2, 232	理事会・総会
運営費	3, 100, 000	2, 926, 080	△173, 920	
事 務 費	550, 000	479, 334	△ 70, 666	事務用品費・通信費
人 件 費	2, 550, 000	2, 446, 746	△103, 254	職員費・通勤手当・社会保険料等
予備費	31, 315	22, 000	△ 9, 315	
合計	3, 419, 315	3, 094, 515	△324, 800	

III 差引残高

3, 280, 085 — 3, 094, 515 = 185, 570 (次年度繰越金)

平成20年度 北海道・マサチューセッツ協会事業計画

1. 会 員 この数年、会員が減少の傾向にあるので、会員の増員と会の活性化に務める
 (事務局の努力だけでは限界があり、役員・一般会員にも積極的なご協力をお願いしたい。)
2. 会 議 2008 年 5 月 13 日(火) 理事会・総会
3. 広報活動 「HOMAS」ニューズレター 第 54・55・56 号の発行
4. 行 事・関連行事
 (1) 総会・日本舞踊
 2008 年 5 月 13 日(火) (藤扇流日本舞踊・藤扇 千女)
 (2) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ
 第 1 回 5 月 24 日(土) 円山八十八ヵ所・北海道神宮コース
 第 2 回 7 月 23 日(水) 三角山～大倉山新コース
 第 3 回 8 月 12 日(火) 時計台・大通公園散策・札幌市資料館コース
 第 4 回 9 月 13 日(土) 藻岩山三十三ヵ所・昼食会・山頂ミニコンサート
 第 5 回 11 月 12 日(水) 知事公館・ミニ大通・道庁赤れんが庁舎コース
 (3) 国際交流ランチセミナー
 第 1 回 6 月 28 日(土) <北大構内散策：レストラン「エルム」>
 第 2 回 10 月 25 日(土) <ハロウィーン：すみれホテル>
 第 3 回 2 月 14 日(土) <バレンタインデー：レストラン「みもざ」>
 (4) 2008 ポストン美術館浮世絵名品展・ピカソ展鑑賞ツアー
 平成 20 年 10 月 17 日(金)～19 日(日) 東京 3 日間
5. 交流事業
 ○ マサチューセッツ州関係訪問団の受け入れ
 (1) 第 4 回ノーブルズ高校短期交換留学プログラム(12 名) 6 月 27 日(金)～7 月 19 日(土)
 (2) コンコードグループ(Dr. カーチン他 8 名) 打合せ来札 7 月 5 日(土) ～7 日(月)
6. 資 料 本道とマ州の関係資料・情報等の収集

平成 20 年度 一般会計 収支予算

I 収入

(単位: 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
会費	2,800,000	3,100,000	△300,000	
個 人 会 費	550,000	600,000	△ 50,000	180 口
法 人 会 費	2,250,000	2,500,000	△250,000	130 口
助成金	0	0	0	
広告収入	100,000	30,000	70,000	
雑収入	5,000	30,000	△ 25,000	預金利息他
前期繰越金	185,570	259,315	△ 73,745	
合計	3,090,570	3,419,315	△328,745	

II 支出

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
事業費	225,000	285,000	△ 60,000	
会報発行費	70,000	80,000	△ 10,000	会報 3 回(印刷・送料)
セミナー開催費	60,000	50,000	10,000	ランチセミナー3回
情 報 収 集 費	5,000	5,000	0	参考文献
特別会計操出金	60,000	120,000	△ 60,000	美術鑑賞の旅
訪問団受入費	30,000	30,000	0	小グループ受け入れ
会 議 費	3,000	3,000	0	理事会・総会
運営費	2,850,000	3,100,000	△250,000	
事 務 費	500,000	550,000	△ 50,000	事務用品・通信費
人 件 費	2,350,000	2,550,000	△200,000	職員費・通勤手当・社会保険料等
予備費	12,570	31,315	△ 18,745	
合計	3,090,570	3,419,315	△328,745	

平成 20 年度 第 1 回 国際交流ランチセミナー記録(抄)

～ノーブルズ高校短期交換留学生を迎えて～

日 時 平成 20 年 6 月 28 日(土) 10 時 ～ 14 時
 コース 北大正門(北 8、西 5)前 10 時集合～新渡戸稲造メアリー夫妻寄贈のハルニレ～
 クラーク博士胸像(写真撮影)～ボプラ並木～新渡戸稲造博士胸像～総合博物館
 見学(開拓使時代・札幌農学校の歴史学習)～レストラン「エルム」(TEL011-726
 -7601)昼食交流会 12 時～14 時解散
 後 援 (財)札幌国際プラザ (社)北方圏センター
 昼食会 北大ファカルティハウスエンレイソウ レストラン「エルム」(北区北 13 条西 8 丁目)

<ゲスト>

ノーブルズ高校訪問団

トモコ・グラハム	(グラハム先生)	(教 員)
ティレスイー・ハリントン	(ハリントン先生)	(教 員)
エヴァン・アルトマン	(エヴァン)	(3 年生)
タイラ・アンダーソン	(タイラ)	(2 年生)
ジェシカ・アンダーソンネルソン	(ジェシカ)	(3 年生)
エマ・デービス	(エマ)	(1 年生)
マイケル・ドデック	(マイク)	(2 年生)
サンティアゴ・ダニエル・イグレスias	(ダニエル)	(3 年生)
ローラ・カーク	(ローラ)	(2 年生)
ジェニファー・ローレンス	(ジェン)	(3 年生)
アヌジ・パテル	(アヌジ)	(3 年生)
ジャスティン・トーランバレル	(ジャスティン)	(2 年生)

北海道大学サマープログラム 2008 参加者

マーガレット・マッカーシー	(スプリングフィールド工科大学教授)
ジェームズ・リッチ	(マサチューセッツ州立大学在籍)

<概 要>

この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基本理念を置き、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の問題を論じ、会員同志の意見交換・交流の場にもなることを目指しています。すでに 21 回開催しています。今回は 22 回目です。

今回のゲストは、米国マサチューセッツ州ノーブルズ高校からの札幌国際情報高校短期交換留学生の一行 12 名(先生 2・生徒 10)とスプリングフィールド工科大学教授ご夫妻(2 名)をお迎えしまして、各テーブル 2 名～3 名のゲストを囲んで、国際色豊かな楽しい時間を過ごしました。なおアトラクションとして、藤扇流日本舞踊も楽しみました。ここには紙面の都合で、各国ゲストのスピーチのみをご紹介します。今回の参加者は、合計 42 名でした。(通訳は、当協会会員・岩崎 修子さん)

北大構内散策・昼食交流会の概要

札幌農学校は、米国マサチューセッツ州立大学(UMASS)からのウィリアム・S・クラーク博士、ウィリアム・ホーラー、デヴィッド・P・ペンハローの一行を迎えて、明治9年(1876)8月14日に現在の時計台の地域に開校しました。その後、ブルックス、カッター、ピーボディー、サマーズ、ストックブリッジ、ヘート、ブリガムなど多くの外国人教師を迎えた歴史を経て、当時農場であった現在の北大キャンパスに、明治36年(1903)新校舎落成移転しました。

その後、東北帝国大学農科大学(明40～)、北海道帝国大学(大7～)、北海道大学(昭22～)となり今日に至っています。今回は、この北大の歴史・学術資料を集約した「総合博物館」をじっくり見学学習します。コースは、メアリー夫人寄贈のハルニレ(明38)、「クラーク像」(大15)と「クラーク会館」(昭34)、「古河記念講堂」(明42)などを見て、ポプラ並木(明36)、「新渡戸稲造博士顕彰碑」(平8)、そして「総合博物館」(平11)見学となります。＜時間がないので、残念ながら「札幌農学校第2農場」(重要文化財)のモデルバーン(模範家畜房・穀物庫・牧牛舎)(明10)は見学できません。＞お昼は、レストラン「エルム」で“大野池”を見ながら、ゲストを囲んで国際交流昼食会＜アトラクションは藤扇流日本舞踊＞(12時～14時ごろ)となります。

今回のゲストは、米国マサチューセッツ州ノーブルズ高校からの札幌国際情報高校短期交換留学生の一行12名(先生2・生徒10)とスプリングフィールド工科大学教授ご夫妻(2名)です。



北大構内散策 クラーク博士胸像前にて

<ノーブルズ高校・日本語クラス生徒の自己紹介>

1 Jennifer Lawrence (ジェン)

はじめまして。私はジェニファー・ローレンスです。去年9月に高校3年生になりました。北海道に
いる間に日本語と日本の文化についてしっかり学びたいです。

2 Evan Altman (エヴァン)

はじめまして。僕の名前はエヴァンです。僕も高校3年生です。日本は素晴らしい国だと思います。
札幌にいる間にたくさんのことを経験したいと思います。

3 Michael Dodek (マイク)

はじめまして。僕の名前はマイケルです。僕は高校2年生です。そして17歳です。たくさん日本語
を話して上手になりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

4 Santiago Daniel Iglesias (ダニエル)

はじめまして。私の名前はサンティアゴ・ダニエル・イグレスiasです。今回、私はマイアミのマ
スト・アカデミー高校から参加させてもらいました。9月で高校3年生になりました。日本はとてもお
もしろいです。札幌もとてもおもしろそうです。いろんなことを楽しみにしています。よろしくお願
いします。

5 Tyler Anderson (タイラ)

はじめまして。私の名前はタイラ・アンダーソンです。16歳です。高校2年生です。日本はいい国
です。札幌ではおいしいラーメンを食べたいです。どうぞよろしく。

6 Emma Davis (エマ)

はじめまして。私はエマです。9月から高校1年生になります。みんなと一緒に日本へ来てとてもう
れしいです。どうぞよろしくお願いします。

7 Justin Toran-Burrell (ジャスティン)

私の名前はジャスティンです。私は15歳で高校2年生です。日本へ来てうれしいです。どうぞよろ
しくお願いします。

8 Laura Kirk (ローラ)

私はローラ・カークです。9月から高校2年生です。そして16歳です。どうぞよろしく。

9 Anuj Patel (アヌジ)

僕の名前はアヌジです。高校3年生になります。日本に興味がありますから、たくさんの人に会
いたいと思います。よろしくお願いします。

10 Jessica Anderson-Nelson (ジェシカ)

はじめまして。私はジェシカ・アンダーソンネルソンです。16歳で高校3年生です。私たちは北海
道とマサチューセッツの交流に参加するために札幌へ来ました。日本の文化について学んだり、アメリ
カの文化についてみなさんと話したりしたいです。わたしたちは日本に着いてから、この一週間、日本
をいろいろ旅行して、お寺、神社、お城などを見て、とても面白かったです。日本のことについて、た
くさん学びました。

これから国際情報高校の家族の家で、約3週間ホームステイをするので、日本の毎日の生活を経験
することができてうれしいです。学校でたくさんの生徒と友達になって、日本語も上手になりたいです。
でも、私がほんとうにいちばん札幌でしたいことは、札幌ビール園に行って、イカ墨アイスクリーム
のような変わった味のアイスクリームを食べてみることです。どうぞよろしくおねがいします。

<ノーブルズ高校・先生の挨拶>

1 1 Ms. Tlesy Harrington (ハリントン先生)

こんにちは。私はティレシー・ハリントンと申します。ノーブルズ高校で数学を 31 年間教えています。私には3 人子どもがいますが、みんな日本語を勉強して日本でホームステイを経験しました。長女のケイトは京都でホームステイをしました。次のマイケルは札幌国際情報高校への留学生第 1 陣のグループで、智子グラハム先生と一緒に 2002 年に来ましたし、下の息子ポーは、一昨年 2006 年にこちらに来てホームステイをしました。

そして、2008 年は、私の番ということで、こちらに来るのを楽しみにしていました。どうぞよろしくお願いします。

1 2 Ms. Tomoko Graham (グラハム先生)

今日は楽しい会に招待していただきましてありがとうございます。北海道・マサチューセッツ協会に大変感謝しております。札幌国際情報高校とノーブルズ高校の交換留学プログラムのきっかけも北海道・マサチューセッツ協会の力添えがあったからであり、非常に感謝しております。今回で 4 回目となります。2001 年に交流のお話があって、2002 年から短期交換留学が始まって、2004 年、2006 年、2008 年と 4 回目の来札になります。その間、私たちノーブルズ高校と札幌国際情報高校は交流を深めてゆきまして、そして 2005 年には、ついに姉妹校提携も実現しました。そういう関係でお互いの生徒たちを受け入れ、生徒たちがいろいろな形で交流を通して、そして先生同士の交流も深めまして、私たちはいろんな形で教育としての質を上げていると思います。

今回も、生徒たちは初めてですが、私は交流が始まった 2002 年、2004 年、2006 年そして 2008 年とずっと参加してきました。このすばらしい交流がいつまでも続くようにと心から願っています。それぞれの生徒は、その年で交流を終わるのですけれど、このように続いていくことでますます日米の交流が深まって、学校レベル・個人レベルだけでなく、全体の平和への寄与にもつながるのではないかと私は思っています。皆様のご協力もいただいて、ほんとうにたくさんの方々のおかげで、私が今ここにいるのだと思っています。これからもよろしく願いいたします。ありがとうございました。

<特別ゲスト：北海道大学サマープログラム 2008 参加者>

1 3 & 1 4 Ms. Margaret McCarthy & Mr. James Ricci (マーガレットさん、ジェームズさん)

こんにちは。私はジェームズ・リッチと申します。こちらは妻のマーガレット・マッカーシーです。私たちは、北海道に来てまだ 1 週間で、日本語も勉強をはじめて 4 日目なので、あまり日本語を話せなくてすみません。私たちは、2 人ともマサチューセッツ州アマースト出身ですので、マサチューセッツ州立大学と札幌農学校設立の歴史や北海道との歴史的なつながりについては知っていました。

そういうわけで、北大のサマースクールプログラムに参加するのを楽しみにしてやって参りました。また私は、米国の「マサチューセッツ北海道協会」の会員でもありますので、今日の会に参加するのをとても楽しみにしていました。皆さんにお会いできてうれしく思います。ノーブルズ高校の生徒さんたちは日本での滞在を楽しんでください。そして文化交流を深め、歴史を学んでほしいと思います。

わたしたちは、確かに違う言語を話しているかもしれないけれど、基本的には同じなのだということを実感していただきたいと思います。私自身も若い頃、イタリアに 1 年いまして、そのときの思い出は一生忘れられない経験となりました。がんばりましょう。

では、ありがとうございました。そして「コンニチハ」(日本語)。



国際交流ランチセミナー会場にて



「春 雨」 藤扇 千女



—藤扇流日本舞踊—

「ひばり・・・に恋して」 浅野 順子



梅后流江戸芸かっぽれ



ノーブルズ高校生も一緒に

米国マサチューセッツ州ノーブル・アンド・グリーノー・スクール日本語教師 グラハム智子
(北海道・マサチューセッツ協会会員)

ノーブルズ高校の概要

「ノーブルズ」は、「ノーブル・アンド・グリーノー・スクール」の略称で、米国マサチューセッツ州デダム市にあるニューイングランドでは指折りの進学校です。ボストン市内からは南西に車で約35分の所に位置しています。グレードは中1から高3までの6年生で、生徒総数530名、教員数80名の学校です。

1866年来の歴史を通してアカデミックな中に芸術、スポーツにも力を入れた教育を提供している歴史と伝統のある学校で、外国語科目は、スペイン語、フランス語、日本語、中国語（今年1月からスタート）の4言語があります。

日本語クラスの交換留学プログラム成立のいきさつ

日本語クラスは、小さいながら20数年前から続いています。長く京都の私立高校と交換留学をしていましたが、13年以上続いた交流関係も時が経つとともに継続が難しくなり、2000年を最後に幕を閉じました。幸い、北海道とマサチューセッツは姉妹州であるという関係で、新しい相手校を探してありましたところ、2001年、タフツ大学の森田喜代子先生と北海道・マサチューセッツ協会の中垣正史先生から紹介を受けて連絡協議を続けた結果、札幌国際情報高校との間に短期交換留学プログラムが成立しました。2002年に第1回がスターとして以来、両校の交流は、今日まで、下記のように順調に継続しています。

プログラム継続実施の経過

- 2002年6月 ノーブルズ高校生徒6名・教師2名が、札幌国際情報高校に3週間の短期交換留学。
- 2003年9月 札幌国際情報高校生徒8名・教師2名が、ノーブルズ高校に1週間の親善訪問。
- 2004年6月 ノーブルズ高校生徒6名・教師2名が、札幌国際情報高校に3週間の短期交換留学。
- 2005年3月 札幌国際情報高校生徒2名が、ノーブルズ高校に8週間の長期交換留学。
- 2005年9月 札幌国際情報高校生徒6名・教師3名・父兄代表1名が、ノーブルズ高校に1週間の親善訪問。（姉妹提携が実現）
- 2006年6月 ノーブルズ高校生徒7名・教師2名が、札幌国際情報高校に2週間半の短期交換留学。
- 2007年3月 札幌国際情報高校生徒2名が、ノーブルズ高校に8週間の長期交換留学。
- 2007年9月 札幌国際情報高校生徒8名・教師2名が、ノーブルズ高校に1週間の親善訪問。
- 2008年6月 ノーブルズ高校生徒10名・教師2名が、札幌国際情報高校に3週間の短期交換留学。

今後の展望

今後も、ノーブルズ高校は、隔年で6～7月に3週間プログラムで札幌を訪れ、札幌国際情報高校の生徒の家庭にホームステイをしながら、学校に通って授業体験をする予定です。一方、札幌国際情報高校は、来年から春の長期留学生を3名に増やして7週間、秋には今まで通り生徒8名・教師2名の親善訪問団が1週間ボストンに来る予定になっています。

ノーブルズの日本語プログラムによって、札幌国際情報高校との交流は大きなプラスです。日本語を学習する生徒は、この10年間徐々に増えています。日本語1からAP日本語までの5つのレベルのコースに約45名の中高生徒が日本語を学んでいます。日本語や日本文化に興味があるからこそ日本語の授業を取るのも、当然多くの生徒がいつか日本へ行ってみたいと思っています。それで、この3週間のホームステイと学校体験、かつ1週間の観光旅行と合わせて約1か月の日本滞在経験は、日本語を勉強する強い動機づけになっています。この旅行に参加してからもっと熱心に日本語を勉強するようになる生徒も多いです。また、札幌国際情報高校からノーブルズを訪れる生徒の貢献も大きいものがあります。特に長期留学の生徒は、朝のアセンブリーから始まって、ほかの生徒と肩を並べて一日みっちり授業に出て、始めは分かっていても分からなくてもただすわっているだけですが、だんだん慣れて来ると、教科書を貸してもらったり宿題をもらったり、先生によっては発表をさせてもらったりして授業に参加するようになっていきます。また自由時間や放課後もノーブルズの生徒の輪に入るようになり、言葉の壁を越えて交友する生徒たちの姿を見て本当にほほえましいと思っています。

マサチューセッツ州の中等教育機関で日本語を教えている学校は、現在8校足らずです。しかし、中国語学習者が激増している西海岸の状況とは異なり、ボストン近辺の日本語学習者が（まだ）あまり減っていないのは、このような日米の学校間の交換留学プログラムが日本語学習者の保持と補強の要になっているものと思います。これからも、更に多くの学校がこのような国際交流に参加することを願っています。

2008年の「能楽教室」と「人形浄瑠璃教室」の参加体験



「能楽教室」（奥田能舞台 7月2日）
＜能の解説・笛・小鼓・大鼓・太鼓などの説明＞
[写真：「船弁慶」前段の一部上演]



「人形浄瑠璃教室」（あしり座公演 7月9日）
＜人形浄瑠璃解説と人形遣いの体験＞
＜「三番叟」・「伊達娘恋緋鹿子火の見櫓の段」の一部上演＞
[写真：人形の三人遣いの指導を受けている]

事務局短信

平成 20 年度 理事会 総会のアトラクション日本舞踊実施

去る 5 月 13 日(火) 午後、北農健保会館(北 4 西 7) 3 階会議室で、平成 20 年度北海道・マサチューセッツ協会理事会に引き続き、藤扇流日本舞踊を鑑賞しました。演目・立方は、端唄「明治一代女」(高橋美智子)・端唄「さのさ」(藤扇千洋)・長唄小曲「恋の風鈴」(藤扇千女)の 3 曲で、約 15 分間のすばらしいパフォーマンスを楽しみました。

ご紹介 東京藤扇流舞踊研究所 札幌本部 藤扇 千女 先生 東京藤扇流家元(藤扇裕士)直伝のお稽古で、気軽に踊れる古典小曲・小唄・端唄・歌謡舞踊・民謡舞踊などの振り付け踊りの指導をされています。道新文化センター・リフレ札幌・サッポロファクトリー・札幌カルチャーセンターなどの教室を担当されています。先生のお稽古場(南 10 西 1)もあります。また梅后流江戸芸かつぼれ(芸名:櫻川后力)も教えておられます。

(住 所) 札幌市豊平区中ノ島 1 条 1 丁目 3-10-505 TEL/FAX (011) 815-5888

マサチューセッツ北海道協会が当協会法人会員として入会を決定 !

Massachusetts Hokkaido Association<President Sue Root>(マサチューセッツ北海道協会、スー・ルート会長)は、去る 5 月 22 日(木)、ボストンの在ボストン日本国総領事館総領事公邸で今年度総会を開催(出席者 75 名)。そして出席者の総意で、今後の北海道との姉妹交流推進のために、法人会員として入会して、一層の連携を強めることを決議しました。

第 4 回ノーブルズ高校短期交換留学の先生・生徒一行来札(約 3 週間)

米国マサチューセッツ州ノーブルズ高校のグラハム先生グループ(先生 2 名・生徒 10 名)が 6 月 27 日(金)~7 月 17 日(木)の日程で来札しました。隔年毎のプログラムで今回は 4 回目になります。札幌国際情報高校の短期留学及びホームステイを中心として、当協会の北大構内散策と「第 1 回国際交流ランチセミナー・日本舞踊鑑賞付」への参加や「能楽教室」「人形浄瑠璃教室」などの日本文化の勉強会など、さらに札幌市内観光、札幌ドーム野球観戦、道内小旅行など多彩な、ワンダフルなスケジュールを終えて帰国しました。

コンコードグループ(8 名)来道一七飯・札幌(約 1 週間)

コンコードグループ(Dr. トム・カーチン、Mr. ディヴィッド・ナレンバーグ他 8 名)が、6 月 29 日(日)から 7 月 7 日(月)の日程で来道しました。七飯町との姉妹提携交流を終えて 5 日(土)来札、札幌白石高校・札幌東商業高校・札幌デザイナー学院など訪問、市内観光。さらに当協会と打合せをしました。コンコードカーライル高校と札幌白石高校とのブラスバンド交流のすばらしい実績と今後の見通し、2009 年 4 月来道予定のコンコードカーライル高校生(約 20 名)のホームステイ・日程調整(詳細未定)、さらに、今後マサチューセッツ州と北海道の高校間の更なる交流プログラムのたちあげを双方の協会が協力して進めたいことなど全体的交流について約 1 時間半のミーティングをもちました。

新入会員紹介(2008 年 3 月 17 日以降)

<個人会員・法人会員>

内山 たかね 高橋 典之

Massachusetts Hokkaido Association<President Ms. Sue Root>

ここは、一冊の時間。

いつも新しい、どこか懐かしい、白い恋人パーク。
 ここには、そんな時間が流れています。

【チューダーハウス】

チューダー王朝時代に流行した建築様式
 (ハーフティンバー様式)を再現。
 訪れた人々を世紀の異国へと誘います。



【ローズガーデン】

約600平方メートルの敷地一面に
 数箇のバラが咲き誇り、豊かな香りが漂います。
 見ごろは5月中旬から10月末まで。



【チョコレートカップ・コレクション】

マイセンやヘレンスウォルソンなど、
 世界の名窯をそろえたコレクション。
 現在では作られていない貴重な
 カップもあります。



【ケーキビュッフェ】

職人によるケーキ作りはガラス越しに見学できます。
 そのできたてのケーキをビュッフェスタイルで
 お楽しみください。



白い恋人パーク

札幌市西区宮の沢2条2丁目 (SHIROIKOIBITO PARK)
 営業時間 9:00~18:00 TEL (011) 566-1481
www.shiroikoibito.lshiya.co.jp



